

## 団員の誓い

私たち航空少年団員は大空を愛し、  
航空の知識を学び、  
団体活動を通じて心身を鍛え、  
明朗で社会に役立つ青少年になることを  
誓います。

## 航空少年団 (SFA)



## ニュース

## 発行所

(一財) 空港支援機構 航空少年団本部  
〒105-0011 東京都港区芝公園 1-3-1  
留園ビル5階  
電話 03-6452-9612 FAX03-6452-9251

## 「航空少年団本部長 退任ご挨拶」

航空少年団本部 本部長 岩崎貞二



2018年10月に就任したので約4年半の本部長でした。

航空少年団を支援していた航空振興財団が経営ができなくなり、当時自分が会長をしていた空港支援機構が航空振興財団が行っていた業務を引き継ぐことに決めました。その流れで本部長に就任しました。

本来は本部長には空港支援機構の現職の幹部が就任することが適切なこと、十分ではなかったですが自分が航空少年団に対してできることはある程度やれたことが退任の理由です。同じ名前ですが新しく就任した岩崎本部長が新しい発想で航空少年団を支援してもらうことを期待しています。

本部長に就任して本部がすべきことを整理し、一つずつ見直しに取り組んできました。ずっと放置されていたままの規定の改廃整理、助成制度の見直し(国際交流の廃止、各団の国内交流の取り組みへの助成など)、航空教室のあり方の見直し、新しいリーダーズブックの策定など。もちろん、自分だけがやったわけではなく、皆さんの協力を負うところが多いですが。(特にリーダーズブックの策定)

海洋少年団に関わったこともあり、まるで違うジャンルですが別のボランティア団体に関わっていることもあり、同じボランティア団体である航空少年団と一緒に仕事できたのは、面倒なこともありましたが気分的には楽しいものでした。また、自分のやってきたことが少しでも航空少年団にとってプラスになったことがあればうれしいことです。

皆さんに感謝しつつ、退任させていただきます。ありがとうございました。

## 「航空少年団副本部長 退任ご挨拶」

航空少年団本部 副本部長 石橋 明



この度、航空少年団本部副本部長を退任することになりました。本部の皆様には、長期間大変お世話になりました。誠に有難うございました。後半の、この3年間は、コロナ禍の影響を受けまして、十分な任務を果たせずに時間だけが瞬時に過ぎ去ってしまい誠に残念で、心残りでございます。

各団役員の皆様には、航空少年団本部(空港支援機構様)から、物心両面で大変お世話になっている事実関係を正しくご認識頂き、そのご恩に報いるためにも、日頃の団活動を、役員の皆様ボランティアの志を大切に受け入れて適材適所に役割分担をなさると同時に、各団特有の組織力を十分に発揮されて、「安全で楽しく団員に役立つ団活動」を全員参加型で展開されることを心からお願い致します。

後任副本部長をお引き受け下さる大阪団団長西澤彰キャプテンは、大阪団創立時から役員として参加されて、偉大な先輩方をご支援なさって団活動に貢献して来られました。西澤団長は、先輩役員さんたちを大切にだけでなく、現役の役員さんたちを大切になさって、適切な役割分担をして、ご意見を傾聴し、全員参加型で団活動を理想的に運営されています。

特に見習うべき点は、幹部団員として活躍した団員OBとの連絡を維持して、社会人になってからも折を見て後輩団員を指導してくれる雰囲気醸成していることです。正に全員参加型団運営のお手本でありまして副本部長に相応しい方です。

航空少年団活動を展開するうえで最も大切な課題は、安全管理です。団活動は、安全第一ですから、日頃から安全意識を高める具体的活動を展開することが大切です。団体行動では、規律を守り、協力し合うという基本姿勢に加えて、組織行動の基本として、入手可能な情報を極力共有化することを習慣づける必要があります。航空人に必須の「協調性」を育成して頂きたいと存じます。

最後に航空少年団活動の益々のご発展を祈念致しまして退任のご挨拶と致します。

## 第44回航空教室の開催について

今年度は3年ぶりに航空教室を開催することができました。関西地区において研修生17名を迎え大阪団、関西団の支援により空港見学やヨット体験、管制官等の研修施設である航空保安大学校見学など有意義な時間が過ごせたことと思います。大阪団、関西団の皆様には紙面を借りてお礼申し上げます。

航空教室の詳細については、夏に発行のスカイフレンドに掲載予定です。

## ～ 各団のトピックス ～

## 千歳航空少年団

今年度は7月に千歳航空少年団設立30周年の記念式典と千歳航空少年団主催のSFA・CHITOSE航空教室を開催しました。10名の元気な新入団員と7名の特別幹部団員を迎え対面式の総会を無事終了しました。

2023年度は団員が大好きなパラセール、スノーモービル訓練他毎月の訓練が無事出来る事を願っています。

(写真は千歳団名物“イエーイ!”バージョンで…)



## 5月・6月：日本航空大学校北海道オープンキャンパス特別プログラム

日本航空大学校北海道のオープンキャンパス開催日に小学生用の特別プログラムを作っていただきました。又、6月にも“トップガン”とのコラボオープンキャンパスがあり参加させていただきました。



**6月：パラセール訓練****8月：パラセール・スポーツカイト訓練**

“飛び出せ空への第一歩！”千歳航空少年団ならではのパラセール訓練。今年は晴天の下、2回訓練を行う事が出来ました。

**7月：千歳航空少年団設立30周年記念式典  
SFA・CHITOSE 航空教室**

7月16日千歳市総合武道館アリーナにおいて、千歳航空少年団創立30周年記念式典及びSFA・CHITOSE航空教室を開催致しました。

千歳市長 山口幸太郎様、航空自衛隊千歳基地司令 柳享範様、千歳団特別顧問 衆議院議員 和田義明様、北海道道議会議員 梅尾要一様、千歳団団員達の先輩である北海道道議会議員

太田憲之様、他顧問及び育成会のご来賓の皆様にご来賓の皆様に多数ご出席いただき千歳航空少年団の30年間の歴史や活動をご報告する事が出来ました。午後からは同会場にてJAL、日本航空大学校、航空自衛隊千歳基地、青年会議所有志、千歳市空港政策課の協力を得て当初予定の倍の申込があり抽選に至った総数100名を超える航空教室を無事行う事が出来ました。

千歳空港開港100年事業の一環として毎年開催を検討中です。

**7月：航空自衛隊千歳基地サマーキャンプ**

昨年に続き航空自衛隊千歳基地でサマーキャンプをしました。昨年はコロナの影響で管制塔見学ができませんでしたが今年のご配慮いただき見学することが出来、団員達も大喜びでした。待望のナイトランウェイウォークも今年は昨年の3倍、滑走路を900mも歩く事が出来ました。

**7月：千歳のまちの航空祭オープニングテープカット C2体験搭乗**

2023年度から千歳基地航空祭は“千歳のまちの航空祭”と名付け千歳空港開港100年に向けて千歳のまち全体のお祭りとして皆さまをおむかえします。航空祭前日、役員は航空自衛隊輸送機C2の体験搭乗にご招待いただきました

**9月：郊外研修 支笏湖・カヌー体験**

3年振りの郊外研修です。初めてのグループカヌー体験でした。

晴れわたる空、澄みきった湖水。これがかの有名な“支笏湖ブルー”です。みんな元気に漕ぎ切りました♪

**10月フィルムキャップロケット・ドローン訓練****11月紙飛行機づくり、飛行大会**

本日の紙飛行機はシチレンペーパー作りから…飛行は板による圧で滞空時間を延ばします。

ドローンは実機飛行の他、プログラミング・シミュレーター飛行訓練も行います。

**12月：クリスマスパーティー 本部主催航空教室報告**

3年振りにコロナ前のスタイルでクリスマスパーティーを開催しました。密を避け残念ながら個人配膳のお料理でしたが、クイズも航空教室の報告もワイドモニター画面の使用で工夫を凝らしていました。ドイツ、稚内から団員のビデオレターもありました。

**岩沼航空少年団**

令和4年度もコロナ感染症により計画していた行事を中止したり、感染症対策に気を付けながら、マスクの着用、手洗い、密の回避など基本的な感染対策を心掛けながら行事を開催してきました。

特に今年度の一代行事として岩沼団は令和2年度に創立30周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症に伴い、色んな行事等が開催できなくなり、記念行事を先延ばしにしておりました。

コロナ禍も収束に治まりつつ念願の記念行事を第4回航空教室に合わせて「岩沼創立30周年記念行事」と題して他団との交流と親睦を目的として開催することになりました。以下、実施した行事内容を紹介します。

**5月15日(日曜日)【令和4年度総会・入団式】**

令和4年度総会・入団式を5月15日(日曜日)玉浦コミュニティセンターで開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から検温、消毒、マスクの着用、喚起、ソーシャルディスタンスの確保等感染予防対策を徹底した上で行いました。

**5月21日(土曜日)【千年希望の丘2022FINAL 植樹祭】**

東日本大震災で被災した沿岸部などで「緑の防潮堤」造りに取り組む公益財団法人「鎮守の森のプロジェクト」が21日岩沼市の千年希望の丘で植樹祭が開催され、岩沼航空少年団もボランティアとして参加しました。

2013年から続いた岩沼での植樹祭は今回が最後となり、延べ33万7千本が植栽されました。

植樹した団員から「植樹した木が今後役に立ってくれるなら嬉しいなと思いました。もっとたくさんの木を植えたいと思いました。」

**6月19日(日曜日)【オンライン講演会】**

関西航空少年団からの案内でオンライン講演会に参加。講師は、中部国際空港などで主任航空管制官を務められた田中秀和氏により、航空管制官とはどんなお仕事か及び航空機が通る空の道など17年の経験を元に様々な裏話を聴くことができました。岩沼団からは、2組の親子と幹部団員1名が参加しました。団員からは、航空管制官の生のお話を聞いて親子共々興味津々、質問もたっぷりできて良かったです。

と感想を述べました。約2時間のオンライン講演会で興味ある管制官のお話を詳しく聴かせていただき、大変貴重な経験となりました。

7月29日(金曜日)～8月7日(日曜日)【セスナ機体験搭乗】

仙台空港に於いてSFC(仙台フライングクラブ)所属の操縦士 棚谷 学氏の協力を得てセスナ機体験搭乗を行いました。コロナ感染症対策もしながら人数制限を設け四日間実施しました。棚谷氏による運航前の飛行計画の手続きのやり取りを熱心に聞いていました。搭乗後は、管制塔とのやり取りを見たり、操縦かんを握ったり、とても良い経験をしました。



8月28日(日曜日)【航空自衛隊松島基地航空祭】

あいにくの悪天候により午前中のブルーインパルス飛行展示は中止。航空自衛隊松島基地で28日、3年ぶりに航空祭が開かれ、約2万5千人の来場者でにぎわった。岩沼団も小雨の中7時に集合し、幹部団員・団員合わせて14名が大型バスに乗り込み、一路松島航空自衛隊基地に向かいました。

あいにくの雨で、基地所属のブルーインパルスの飛行は午後の1回だけになりました。会場は県内外から訪れた人たちで混雑していました。屋外には戦闘機など様々な航空機が並び、格納庫内では



救難隊の装備や航空機のエンジンなどが展示されていました。

F2戦闘機のそばに足場が設けられ、団員もコックピットの高さまで登って機体の操縦かんや計器類を間近で見学していました。

10月8日(土曜日)～10日(月曜日)【岩沼団30周年記念行事】

令和2年度で岩沼航空少年団は、創立30周年を迎えました。記念行事のイベントは以前から構想を練っており、他の団との交流の機会と位置づけて、航空機を利用し他の団を訪問して交流・親睦を深めることを目的として進めておりました。ところが、新型コロナウイルス感染症に伴い、色んな行事等が開催できなくなり、記念行事も先延ばしにしておりました。



コロナ禍も収束に治まりつつ念願の記念行事を第44回航空教室に合わせて開催することになりました。

沼田団長以下11名(内訳:幹部団員4名、団員7名)参加し、研修行事の中で多くのことを学ばせていただき、航空に関する視野も広げることができました。特に関西航空少年団の皆さん、泉佐野市の職員の方々から事前準備から当日まで懇切丁寧に対応いただきありがとうございました。記念行事の目的である他団との交流・親睦を十分に達成することが出来た3日間でした。

今後の活動としましては、2月のスキー教室を予定しております。今後の活動もコロナ感染症対策に気を付けながら団員(子供)が幹部団員(大人)と関わり合い、互いに礼儀を学び社会に役立つ人になれるように見守っていききたいと思います。

成田航空少年団 ～ 広報活動 航空業界との連携に向けて ～

当団はルーチン化(陳腐化)した活動内容により退団者が後を絶たず「団員定着」に課題があります。原因は団員の求める活動が出来ていないことであり、課題解決には「航空少年団だからこと可能な魅力ある活動」の再創出が必要です。当団は成田国際空港を中心とした航空少年団であり、今年度は航空業界との繋がりを取り戻すことを目的とした「団の広報活動」に注力しました。併せて他団においても当団事例をもって航空会社と連携し、同様の活動に繋げることができるよう活動結果をSNSで発信することとしました。本寄稿にて今日に至るまでの軌跡を振り返り、報告とさせていただきます。



【01 航空業界への再アプローチ】 業界再連携に向け、まずもって業界各社へご挨拶する必要性がありましたが、そもそもどなたにすれば良いものか、また手段もわからない中、本年度より顧問をお願いしている航空科学博物館の郡司館長より、関係者をご紹介頂いたことがその後の活動に繋がることとなります(詳細次項)。



【02 成田国際空港開港フェア2022 ～団員メッセージの発信～】 イオンモール成田にて開催されている「成田国際空港開港フェア」は、業界が会すイベントであり、屋外会場は特殊車両や空港バスの展示もあるため、大変な賑わいです。当団は、郡司館長から出展のお誘いを受け、神奈川団・米山団長の協力を賜りながらFS体験ブースを出展。常時体験待ちが発生するほど盛況でありました。一方、このイベントではセレモニーもあり、各エアラインからも役職者が出席されます。出展決定の直後よりイベント事務局に提案と調整を重ね、団員による「航空業界の皆様へ感謝の言葉」を直接伝えさせて頂く機会を頂戴しました。セレモニー終了後には、出席者より「嬉しかった、(コロナ禍の影響が色濃い時期であり) 私たちも頑張っているから、君たちも将来に向けて頑張ってください」等の暖かな言葉を頂く中、各社とご挨拶が叶い、その後の広報活動に繋がることとなります。

【03 日本航空株式会社 (制限区域内、一般活動)】 以前は成田空港内整備場の見学機会があり大変好評でしたが、直近はご依頼する手段が無く、見学を断念しておりました。今回、数年ぶりに航空教室を開催頂き、飛行機が飛ぶ理由を丁寧に教えて頂きました。また、整備士の方に直接質問させて頂いたり、整備中のB787を見学させて頂いたりしました。JAL生協でのJALグッズを購入も楽しかったようです。



【04 株式会社ZIPAIR Tokyo (制限区域内、参加団員制限あり)】 1/100スケールの大型モデルを当団に寄贈頂きました。モデル受領日は、サンノゼ線就航と機体デザイン変更の報道発表日と重なったため、西田社長に配慮頂き、記者会見を見学させて頂きました。また「空の日」に合わせてNHKで当団を特集頂いた際は、オフィス見学をさせて頂きました。当日はBKKへ出発するクルーを追う予定でしたが、機材到着の遅れによりLAXから到着したばかりのクルーに変更。団員達はイレギュラーを柔軟に対応するバックオフィスの動きに驚いている様子でした。なお、寄贈頂いたモデルは、より多くの児童に見て頂くことを目的に航空科学博物館へ再寄贈しております。

【05 スプリング・ジャパン株式会社 (一般活動)】 成田国際空港に隣接する航空科学博物館にて、神奈川団と合同で空の仕事体験するイベントを開催しました。その際、スプリング・ジャパンより操縦士、CA、ディスパッチャーの方を派遣頂き、一緒にイベントを盛り上げて頂きました。博物館にはスプリング・ジャパンの訓練用モックアップが常設されており、実際の訓練に使用されています。今回のイベントに合わせて、初めてモックアップの一般公開を行っていただき、団員が機内へのご案内を担いました。



【06 全日本空輸株式会社 (制限区域内、参加団員制限あり)】



ANA は成田市が取り組む認知症啓蒙活動に取り組んでおり、啓蒙活動のテーマカラーであるオレンジ色を身に付けて空港視察をしませんか。とお誘い頂きました。当日は A380 の貨物室内や滑走路横で離発着する旅客機の視察を行い、最後に ANA グループの皆さんと NH184・HNL 便のお見送りに参加しました。国際線ランプ活動は、空港会社の他、税関など当局との調整も必要だったとのこと。団員達が大好きな旅客機も、お客様と荷主様あって飛べる事を身をもって体験する機会となりました。

【07 ジェットスター・ジャパン株式会社 (制限区域内、参加団員制限あり)】

JJP と四国 3 県の空港振興政策室(愛媛、香川、高知)が小学校高学年を成田空港に招待する施策のお手伝いをさせて頂きました(各県ごと計3回)。航空科学博物館で団員は小学生と紙飛行機教室に参加し交流を図りつつ、野村事務局長や小松幹部も展示物を解説。JJP オフィスでは団員が当団のプレゼンテーションする機会を頂きました。最後は JJP 帰路便をお見送り。ランプ上の団員と機上の小学生が窓越しに名残惜しそうに手を振る姿が印象的でした。(本件 JJP よりプレスリリースも配信されておりますので、確認頂けますと幸いです)



【08 広報活動の総括】 広報活動は全団員が参加できるわけではありません。そもそも制限区域内の活動は参加人数に制限もありますが、一方で保安上・安全上の観点からも、周りの状況を理解し、引率者や他の団員と協業できる団員、即ち規律統制を取れた団員であることが強く求められます。「全国で活躍する航空少年団だから」という航空業界との信頼関係の中で特別な活動が叶っているわけです。一度でも事故が起きたら同様の活動は出来なくなり、また他団における同様の活動にも影響が生じるでしょう。よって当団では、学年で線引きし参加者を決めるのではなく、月次活動での個々団員の行動状況を総合的に鑑みて選抜しています(恣意的な選抜と受け取られかねないところに苦慮します)。現在、未参加者も多くありますが、まずは基本行動訓練に励み、協調性を身に付け、自身の成長を通じて広報活動に参加して欲しいと常々考えております。今後も業界との連携を通し、より魅力ある活動に繋がるよう、また団員は広報活動への参加を目指すことで個々の成長に繋がるよう、努めて参りたいと考えております。今年度は多くの保護者が幹部として団運営に関わるようになり、また元団員であり現職エアラインパイロットが幹部として団に戻って来てくれました。高校生の準幹部も団運営を盛り上げてくれています。2023 年度はどのように団が変化していくのか、とても楽しみです。

## 羽田航空少年団

2022 年度の活動は、4 月からコロナ感染対策を行いながら再開したが、感染リスクへの大きさや当日の微熱、咳、体調不良等も活動への参加辞退もお願いしており、参加者人数等の盛り上がりには欠ける結果となりました。そういった中で、7 月行事からはほぼ本格的な再開となっています。以下に活動の一端を紹介させていただきます。



### 7 月「ヨットスクール」

今回のヨットスクールは、神奈川県下における新型コロナウイルス感染拡大が想定を超える状況下において、検温等、対策に配慮した行事となりました。

好天に恵まれた海のコンディションは最高で、目の前に富士山を眺めながらのセーリングは参加者にとって存分に楽しめたことと思います。

江の島ヨットハーバーは 1964 年、2021 年の 2 度の東京五輪で競技会場となりました。

この地でセーリング体験の醍醐味を味わえることは、羽田航空少年団として他にはない夏の行事だと確信いたしました。

東京海洋大学ヨット部 OB 会会長などを永年歴任された当団の新井顧問が活動の継続を繋いでくれています。

9 月「モーターグライダー体験搭乗」台風直撃で中止。 残念！

### 10 月「東京国際空港 航空機給油施設見学」

当日は朝 10 時から午後 3 時まで、昼食をはさみ、施設の見学、そして各種体験など豊富なメニューを少年団の皆さんと一緒にたっぷり楽しみました。航空機燃料タンク火災に対する専用特殊消防車による放水も行われ迫力満点の見学でした。

私たちも普段入れない場所を見学させて頂き、大変勉強になりました。

このような機会を設けて頂いた羽田航空少年団様、そして休日にもかかわらず詳細に亘るご説明をして頂いた三愛オブリ(株)様ありがとうございました。

### 11 月「羽田空港航空博物館展」と「羽田歴史さんぽ」

「羽田航空博物館プロジェクト(HASM)」様のご協力で開催しました。

#### ◆「羽田空港博物館展」見学 CITY 1F ヘッドフォン装着

兼高かおるとその時代の展示物や写真に興味を持ち、その場を立ち去り難い参加者が何人も見られました。

#### ◆「羽田歴史さんぽ」足湯スカイデッキ → 1 階 記念碑 → 天空橋 → 旧穴守稲荷神社大鳥居(赤鳥居) → (戦後の羽田地区の住民・京急の背景)(明治時代のテーマパーク) → 日航機遭難者慰霊碑 → 堤防 → 棧橋 → (羽田沖墜落事故からの教訓)(三愛オブリの歴史) → 第 3 ターミナル展望デッキ(何故、羽田空港が日本の玄関となったか?)

HASM の星加・小山理事の準備されたボードを巧みに活用した説明で、羽田空港の成り立ちを学ぶ素晴らしい機会となった事に感謝します。





### 12月「ユニセフ募金とクリスマス会」

毎年行ってきた東京国際空港第一ターミナル地下1階でユニセフ募金を2年ぶりに行いました。

募金金額は、11,405円。クリスマス会でのミニミニバザー売り上げ2,301円でした。ユニセフに送金させていただきました。ご協力ありがとうございました。

<< 一年を振り返って >>

団活動の再開にあたりリーダーとして活躍したのが、今年度及び一昨年度航空教室に参加した鈴木、久永、財津団員達でした。航空教室に参加し体験・学んできたことを発揮し、再開しつつある団活動の大きなサポート役を果たしてくれていました。

<< あたらしい一年に向かって >>

羽田団は新しい団員が増えてきました。団員の構成も変わってきています。

これからの一年は「航空」の好きな団員が学校では学べないこと・体験できないことを、共に学び・体験していくことが出来る場になっていきたいと願っています。それには保護者の皆さんの協力と理解がないといけません。保護者の皆さんも団員と共に大いに楽しみながら団員達を見守ってほしいのです。保護者のみなさんも一緒に参加しませんか。

## 名古屋航空少年団 ～ 前期分 ～

### 4月 【岐阜公園 「金華山に登ろう！」】

今年度最初の行事は4月23日(土)「金華山に登ろう！」を実施しました。基本行動訓練・準備体操の後、3コースに分かれて登山開始、1時間30分程して登山組が集合場所の展望台に到着。休憩、記念撮影の後「岐阜城」目指して出発。岐阜城に登城後は、登山道を約1時間かけて下山、挨拶の後解散となりました。

### 5月 【令和4年度定時総会】

昨年は、新型コロナ禍の影響で対面の総会は避け郵送による書面議決といたしましたが、今年は5月6日(日)に対面で実施を致しました。

全ての議案をご承認いただいた後、休憩を挟み総会記念行事として、高橋理事ご指導のもとで「畳表工作」をご家族の皆様も参加いただき実施致しました。

#### 【春日井市 「第40回 わいわいカーニバル」】

5月15日(日)春日井市落合公園で3年振りに開催され、開始前からお客様が来られてイベントを少し早めに開始、例年より机・椅子の数を減らし、物品の消毒、透明カーテンの設置等で感染防止に努めて実施致しました。予想以上に人気があり、行列が出来る程で春日井市を通じて「名古屋空港ビルディング様」からいただいたノベルティも午前中に無くなり、昼食休憩45分を挟んで午後2時には用意した300枚+予備の50枚が無くなってしまい、盛況のうちに終了致しました。

### 6月 【瑞穂市「明時祭(あじさい)」】

6月19日(日)水野岐阜支部長が立ち上げた学生まちづくり団体「ベネブレイク」が主催する、岐阜県瑞穂市JR穂積駅南地区の活性化を図る企画で、地域の企業様のご協力を得て「明時祭」イベントを開催、岐阜支部も「紙飛行機製作イベント」を実施致しました。幹部団員の指示のもとで小中学生団員が中心となり来場者の皆様に紙飛行機製作指導を行い午後4時までに約120名のご来場をいただき、梅雨の中休みの晴天のもとで楽しく完成した紙飛行機を飛ばしていただきました。

#### 【電動フリーブレン製作・飛行会】

6月25日(土)岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(空宙博)で、元山梨団の水野氏を講師に迎え、「電動フリーブレン製作・飛行会」を実施致しました。以前よりも小型化され製作し易くなっており、団長も団員の製作指導(邪魔?)を致しました。2時間掛けてほぼ全員が完成させる事が出来テストフライトを楽しみました。会場を移動し、昨年度の報告、今年度の活動予定の説明を行い行事を終了致しました。その後、役員会を開催し行事等の再確認を行いました。

### 7月 【関西団との交流会】

7月23日(土)24日(日)の2日間、関西団の皆様をお迎えして交流活動を実施致しました。

23日は「あいち航空ミュージアム」の見学を3名のエキスパートの皆様のご案内で名古屋団と関西団合同で4班に分かれ11時~14時迄実施致しました。14時~15時迄見学の案内をしていただきましたエキスパートの皆様に対する質疑応答、両団員ら多種多様な質問が有り、有意義な時間を過ごす事が出来ました。

24日は11時から「中部国際空港(セントレア)」及び「フライトオブドリームズ」の見学を23日にもお世話になった、元航空管制官の田中様の説明を受け実施致しました。説明の中にクイズも有り、大人も楽しめる内容でした。12時には場所を屋内に移動し、お待ちかねの名古屋ケータリング社様の「機内食風の弁当」を楽しんで食べました。13時~15時まで「LCCターミナル」「フライトオブドリームズ」を田中様の説明をいただきながら見学をし、15時には関西団の皆様と一緒に「ボーイング787試験飛行初号機」の前で記念撮影を実施した後、関西団の皆様とお別れを致しました。

二日間とも、関西団の皆様を会場でお出迎えしなければいけない処、団長の不手際で関西団の皆様にお出迎えをしていただいたのは痛恨の極みでした🥲

### 8月 【航空自衛隊岐阜基地見学&風鈴作り】

8月8日(月)岐阜支部企画で、念願の「航空自衛隊岐阜基地」の見学を午前中実施致しました。管制塔や格納庫といった主要な施設の見学と説明をしていただきました。そして、資料館や基地内の展示機も観覧いたしました。主要戦闘機を間近に見たり触ったり、あのファントムのコックピットに座るなど大興奮の時間でした！そして売店では団員たちのグッズ購入が止まりませんでした。午後は各務原産業文化センターにて、「鶴沼光る風鈴プロジェクト」の風鈴作り講座を受講しました！新型コロナウィルス感染拡大により予定の行事が出来ず、急遽実施となった講座でしたが、講師の西村様からプロジェクトの背景等をお話いただきました。早く作った団員は他の作品作りにも取り組み有意義に時間を過ごしました！

### 9月 【中日本航空専門学校見学】

9月10日(土)岐阜県関市に在る「中日本航空専門学校」開催されたオープンキャンパスに名古屋団団員も参加させていただきました。10時から受付、タイムスケジュールの説明の後、岐阜支部理事で同校の浅井副校長のご案内で行内の見学開始、今回はオープンキャンパスに参加された受験対象者と同じ内容でとても充実したもので、団員も大満足の様子でした。昼食は学生食堂で学食無料体験、その後受験対象者と同じくガチャガチャコーナーで豪華グッズをゲットし、非常に充実した有意義な一日を過ごさせていただきました。また、3月に同校を卒業する団員より差し入れをいただきました。

## 大阪航空少年団

今年の活動は、コロナ関連で宿泊訓練を伴う活動を中心に、上期一部の活動変更を余儀なくされましたが、その後は順調に活動を実施でき、感染対策をとりながらも徐々に元の活動に取り戻りつつあります。

### 5月活動 ヨット訓練⇒フィールドアスレチックに変更@高槻フィールドアスレチック

毎年実施しているヨット訓練は宿泊時の感染対策に不安があり、野外活動のフィールドアスレチックに変更！マスクの着用制限は無かった



のですが、誰一人としてマスクを外すことなく、普段のうっぴんを晴らすかのように体を動かしていました。帰りの集合時間に団員1人来ておらず心配しましたが、大学生幹部団員数人が手分けしてコースを回りすぐに見つけることが出来ホッとしました。

**7月活動 航空教室⇒ZOOMでの“ブルーインパルスを知ろう！”に変更**

大阪団の幹部団員で大学を卒業、4月から航空自衛隊のパイロット幹部候補生学校に入学した者と、すでにウイングマークを取得し、戦闘機の訓練課程に入っている2人の方の講義を予定していましたが、幹部候補生学校でコロナが発生し取りやめになり、急遽ZOOMで“ブルーインパルスを知ろう！”勉強会を実施しました。身近な人からお話が聞け、パイロットへの夢を膨らませるには絶好の航空教室でしたが残念ながら変更！でもブルーインパルスについて色々な事を知る事が出来、8月活動で見れるのを楽しみにしたのですが・・・



**8月活動 舎営@琵琶湖⇒ロボット教室に変更@スカイハウス**

8月6日より、2泊3日の舎営を年初、琵琶湖西岸の民宿での活動を予定したが、後日近くにある自衛隊駐屯地での記念祭にブルーインパルスが来る事が判明、舎営2日目に見れる事を楽しみにしていたのですが、コロナ第7波もあり舎営断念。元ANA整備士の大平副団長によるロボット作成教室を実施しました。今回は綱渡りロボット製作、高校生はさっさと完成させ、小学生を手伝ってくれました。ブルーインパルスの華麗なフライトが見れず残念無念！！

**9月活動 ラフティング@京都 保津川**

お天気にも恵まれ、コロナで夏休みを思うように遊べなかった団員達は、マスクなしで思いっきり楽しんできました。急流ではリーダーの掛け声に合わせてしっかりオールを漕ぎ乗り切ったり、穏やかな流れではボートからの落としあいをしたり、途中の休憩では岸に上がり、岩の上からの飛び込みもやりました。怖くて飛び込めない団員がいると思えば、くるくる回転しながら飛び込む団員もおりました。



**10月 大阪空港エアポートフェスティバル送迎デッキにブースを出して参加しました**

**10月活動 ラジコン教室@ラジコンクラブ飛行場**

毎年恒例行であるラジコン教室。毎回ラジコン機の操縦をさせて頂けるので、だいぶ腕前が上がりました。今年は50ccの大きなガソリンエンジンを載せた、翼幅2Mもある大型機の飛行も見せて頂きました。とっても迫力があり感動。ラジコン機の操縦以外にも、ラジコン自動車で遊ばせて頂いたり、毎年教えて頂いている一本の竹からの竹トンボ制作もだんだん制作のコツがつかめてきて、良く飛ぶ物を作れる様になりました。



来年は、以前のようにお昼食に父母会の方に豚汁を作って頂き、スカイ弁当と一緒に食べたいものです。

**11月活動 岐阜基地航空祭**

早朝大阪を出発、お天気が良くなく飛行機の空中展示が見れるか心配していましたが、シーリングは低いものの何とか戦闘機の迫力あるフライトを見ることが出来ました。当初、名古屋団・関空団との合同活動を予定していましたが、コロナ禍で入場制限があり残念ながら合同活動は断念！終了時間も13時といつもより早く、短い間の見学でしたが有意義な活動でした。



**12月活動 クリスマスパティー@大阪空港“星の間”**

今年も大阪空港“星の間”で実施しました。仮装やビンゴ大会、プレゼント交換の後、残念ながら食べ物を持ち寄ってポトラック形式のワイワイ、ガヤガヤのパーティーは実施できませんでしたが、昼食はスカイ弁当(ジャストおにぎり)を黙食。午後は小さなケーキの土台に各自ホイップクリーム・きのこの山・たけのこの里等のお菓子をを使って思い思いのデコレーションケーキを作り、出来栄を競いました。

仮装コンテストにも賞品が用意されており、ビンゴの賞品を含め沢山のクリスマスプレゼントをゲット。最後は大阪航空少年団のイメージソング「同じ空の下で」をYOU TUBEに合わせて歌い終了しました。

**関西航空少年団 ～「空の日」について～**

去る、11月3日(日)に私たちのホームグラウンドである関西国際空港にある関空展望ホールにて、空の日フェスティバル2022が開催されました。

2021年から、空の日のイベントをする予定でしたが、新型コロナによる緊急事態宣言発令に伴い、うまく活動に踏み込めずにいました。またこのイベント時にコロナ禍終息の架け橋となるプロジェクトとして航空業界や地域にエールを届けるためにDearSkyという歌に団員達が創作したダンス、よさこい、手話パフォーマンスを披露する みんなでつながるDearSkyプロジェクトを進めてきました。



その後も感染状況が落ち着かないまま2022年を迎えましたが、転機が訪れました。

関西空港でのイベント実施が決まったのです。



その際に、団員みんなでDearSkyをご披露することができました。また、当日は、団員のみんなで班活動を行い、いろいろなブースに回ったり、関西航空少年団のブースとして、ブルーインパルスの招致活動やワークショップとしてタッセル(トレネーブルー)をご来場の方々で作成したり、販売した綿菓子(ブルードリームキャンディ)の販売経験をしたりと、久しぶりの大きなイベントに緊張感を覚えたのですが、とても充実した1日となりました。また、イベントまでの準備期間では、自分達でどんなブースを出すのかを考え、当日までに試作を行い、反省点を活かし、イベントに臨むことができました。



たくさんの方々との関わりを持つことで、私達にとってかけがえのない思い出となりました。これからも開催できることを楽しみに、またブルーインパルスを大阪のそらに呼べるよう、活動に取り組んでいきたいと思っております。

## 福岡航空少年団

令和4年度は新型コロナの感染症対策に気をつけながら少しずつ活動できるようになりました。

4月は大刀洗旧陸軍の跡地にある大刀洗平和記念館見学をしました。平和を願うという施設でなかには遺品、資料が展示されており団員幹部共平和について改めて考えたようです。5月は元管制官の団長自ら教官としてお話を頂き管制官の方の大変さご苦労が団員も理解できたようです。

9月は福岡空港で2年振りに行われた「空フェスタ」に10日、11日と2日間にわたり参加し団員募集にも力をいれました。12月は昨年に続き西日本空輸施設見学をさせていただきました。11名の参加でした。



## 有明佐賀航空少年団

### 【令和4年4月17日(日) JAL空育 客室乗務員お仕事講座】

日本航空株式会社ESG推進部社会貢献グループから、オンライン形式でJAL空育 客室乗務員お仕事講座を開いていただきました。

フライトの裏側で大変な苦労や努力を積み重ねられる傍ら、家族旅行、ビジネス客、小さなお子様、高齢者、障がいのある方、様々な乗客がいらっしゃる中で、アイコンタクトを含むチーム力で連携し、明るく満面の笑みで接客する、また乗ってみたいと心から思わせるこれら美しい所作や動作はいったいどのくらい努力したら我々一般人も体得できるものなのか…と、頭の下がる1時間でした。

蝶のはばたきのような小さな動きが、やがて予想もつかない大きな変化につながることを、“バタフライ効果”と言うそうです。今回の講座を機に、少年団員たちの小さな羽が、大きな翼となって羽ばたくことを期待する次第です。



### 【令和4年4月30日(土) 大村航空基地祭見学と長崎空港研修】

大村航空基地祭では、海上自衛隊として配備されたたくさんの国防ヘリや連携を司る防災ヘリを間近で見ることができ、その機能性や大きさに圧倒されました。

自衛隊と自衛官の大変さを一層感じたお祭でもありました。

長崎空港では、搭乗口と飛行機を結ぶ旅客搭乗橋PBB(パッセンジャー ボーディング ブリッジ)を視察しました。最新式のPBBではこの段差が最小化され、より障がい者に優しい構造になったとのこと。少年団員たちは、実際に旧搭乗橋及び新搭乗橋で車いすを用いてその違いを体験することができました。

こうした点にも空港関係の方々への心配りがあることを知り感激しました。

### 【令和4年8月2日(火) 海上保安庁第七管区海上保安部北九州航空基地の見学】

第七管区海上保安部北九州航空基地にはファルコン2000という中型ジェット機が3機配備されていて、このうちの1機(愛称「わかたか」)に搭乗しました。次に、救助用のアグスタ式AW139型ヘリコプター(愛称「はまちどり」)の見学を行いました。これらジェット機やヘリコプターは、特別にコックピットや操縦席に乗せていただき、生涯忘れることのできない体験となりました。

その後、救助訓練の展示と体験が行われ、酷暑の中、鬼気迫る真剣な訓練を目の当たりにし、私たち航空少年団は心から感動しました。

### 【令和4年8月8日(月) 門司税関福岡空港税関支署見学】

税関のお仕事： 偽物密輸取締りの話では、人気アニメのフィギュアの偽物を見せてもらい、どうやって本物と偽物を見分けているのかを聞き、興味深そうでした。

手荷物検査場： 金属探知機の見学やゲートを実際に通らせてもらい、アラームが鳴ってしまわないかドキドキしました。

麻薬探知犬のデモンストレーション： 黒ラブラドルレトリバーのバス号が、日頃訓練している様子を見せてくれました。数ある箱の1つに、麻薬に見立てたニオイが付いたものを入れ、ハンドラーの指示に従い探し当てるといった訓練。バス号はすぐに探し当て、箱の前でピタリ!とお座りして知らせしました。少年団員たちも箱のニオイを嗅がせてもらいましたが、違いがよく分からず犬の嗅覚の凄さがよく分かりました。

税に関して少し難しい話もありましたが、空港にはこういう仕事もあるということを知り、とても勉強になりました。





【令和4年11月20日(日) 九州佐賀国際空港「空の日」フェスタ】

バックヤードツアーに参加されるお客さまをバスの前でお出迎えしたあと、車内に乗り込んだ時の表情は少し緊張した様子でしたが、バスが出発しアナウンスを始めると、しっかり読むことができました。ガイド中に言い方を変えなければいけなかったり、練習とは違った説明の順番にしなければいけなかったり、とハプニングがありましたが、幹部の指示を聞き、落ち着いた様子で対応してくれた団員たちに、驚きと成長を感じました。

一般参加者の中から、じゃんけんで勝ち抜いた親子1組だけが、航空機牽引体験が出来る…つまりトーイングカーに乗ることができるという、なかなかできない体験をしたラッキーな団員がいました！機体プッシュバック中のトーイングカーから見たANAの飛行機は大迫力だったようです。



【令和4年12月27日(火) JAL プリーフィング見学】

令和4年(2022年)最後の活動は…何とJALのプリーフィング見学。JL316便が出発するまでの一連の流れを間近で見学しました。

機長、副機長と同じテーブルに着かせてもらい、テンポよく進められる打ち合わせに、団員たちも真剣に耳を傾けます。時折、今はこういった情報を伝え合っているのかを、子どもたちにも分かるように、機長、副機長が解説までして下さり感激しました。

全体プリーフィングでは、キャビンアテンダントの皆様の素敵な笑顔の自己紹介で始まりました。副機長から、上空での揺れなど伝達事項が始まると、皆様素早くメモを取られていて、キリッとした緊張感が伝わり、近くで見ていた私たちも思わず背筋がピンと伸びました。

次にランプ内へ移動し、空港内の説明をしていただきながら、間近に色々な車両を見ることができました。いよいよJL316の出発時刻。こんなに間近で機体を見たのは初めてであり、JL316をみんなでお見送りしました。一つの飛行機が安全に飛び立つまで沢山の行程があり、多くの方々に関わられていました。今回、離陸までの一連の流れを見ることができて、団員たちも大喜びでした。また、将来の夢に一步近づくことができたと思います。

宮崎航空少年団

一言でいうと、今年もコロナに振り回されてしまった1年でした。そのような中でも少しずつですが日常に戻りつつあるところもあります。今回はそのようなニュースをお届けしたいと思います。

今年度は4月に入団式を挙行することができました。日常に戻る第一歩となりました。

5月には宮崎空港ビル常務でANAの紙飛行機製作の第一人者大森様にご指導をいただき、ホンモノの紙飛行機教室を開催しました。

8月には3年ぶりのサマーキャンプ、東京ツアーも実施しました。

10月には空の日イベント出展、ペットボトルロケット作製・発射

11月にはJAC日本エアコミュタ様の訓練施設見学・体験をさせていただきました。

12月にはクリスマス会も開催しました。

と、このように行事を回顧すると順調に見えますが、コロナ感染や体調不良による欠席者も出たり、午前中での行事になったりと消化不良の感はぬぐえない状況です。このような状況が続いていると活気も失われているような感じがしてきています。新年度こそはコロナ前の活動にできる限り戻しながら、団員とともに楽しい航空少年団活動に戻っていききたいと思います。



これからの本部事業予定

2023年2月17日

2023年10月7日~9日

2022年度全国航空少年団団長会議

第45回航空教室

於：空港支援機構 会議室

於：九州地区(支援団：有明佐賀航空少年団)

航空少年団本部ホームページアドレス

<http://www.aeif.jp/gaiyou/business/boy/index.html>

編集後記

航空少年団ニュースの第5号をお届けします。

各団ともコロナと上手につき合いながら活動されていて沢山の原稿をいただきました。全て掲載できたら良かったのですが、紙面の関係で一部カットや写真を減らしていただき大変申し訳なく思っています。

新年度はスカイフレンド合併号を発行し、航空少年団ニュースも夏・冬の年2回発行したいと思います。

感染防止に努めながらの活動になりますが、各団の活発な活動を楽しみにしたいと思います。